

平成22年度 久留米市内単位互換協定校による

〈共同講義〉開講のお知らせ

久留米市では、市内にある5つの大学等が単位互換協定を締結したことにより、毎年多数の科目が公開され、学生の皆さんが他の大学等の講義を履修した場合に、所属する大学等の単位として認定ができるようになりました。

この単位互換の一環として、単位互換協定に参加している5つの大学等と久留米市とが連携して、毎年一つのテーマを設定し、各校の個性や特色を活かした講座を開講する「共同講義」を実施しています。

今年度は、「久留米の生活と環境」をテーマに、以下の内容で共同講義を開講します。

様々な視点から学ぶことができる貴重な機会ですので、意欲と関心のある学生諸君の多数の参加をお待ちしています。

【授業科目】 共同講義（テーマ「久留米の生活と環境」）

講座 開催日	講師	演題	講義内容	会場
10月5日 (火)	佐塚 秀人 (久留米工業大学 工学部情報ネットワーク 工学科 講師)	新しいICTメディアと地域情報発信	ウェブの普及でインターネットはわずか10年余りで社会のインフラとなった。ウェブはさらに新しい時代を迎え、一方的な情報提供から、様々な方向の情報をつなぐものに姿を変えつつある。新しいICT技術がつくる情報メディアを地域情報発信に活用できるかを考えてみたい。	くるめりあ六ツ門
10月8日 (金)	井川 秀信 (久留米工業大学 工学部交通機械工学科 准教授)	幕末～明治期の久留米技術史(庶民生活に与えた影響)	日本は、幕末から明治にかけて欧米諸国の先進技術を取入れ、大胆な産業改革が行われた。久留米では、幕末期に久留米藩による近代化政策が行われた。久留米藩製造所が設立され、当時佐賀藩に仕えていた田中久重を呼び戻して先進的な技術改革が行われた。本講義では、久留米の産業技術と庶民生活の関わりについて解説し、ゴムの町久留米へと発展した歴史をたどる。	〃
10月12日 (火)	小田 まり子 (久留米工業大学 工学部情報ネットワーク 工学科 講師)	ユビキタスネットワーク社会における生活支援技術	現在既に到来していると言われるユビキタス社会。ユビキタスネットワークにより、いつでも、どこでも、だれでもITの恩恵を実感できる社会が実現できているのでしょうか。高齢者や障害者も含む誰もが情報機器やサービスを利用でき便利で豊かな生活を送るために必要な支援技術について紹介します。	〃
10月19日 (火)	藤田 雅俊 (久留米工業高等専門学校 機械工学科教授)	都市とモビリティ・久留米市の公共交通を考える。	1市4町が合併し中核都市となった久留米市では、市域全体での利用者の快適な移動手段・モビリティを考える時期に差しかかっています。都市環境での様々な取組みを行っているヨーロッパの例を参考に、久留米市のモビリティを考えます。	〃
10月22日 (金)	中嶋 裕之 (久留米工業高等専門学校 生物応用化学科教授)	環境の中の地衣類とその工業的利用	地衣類は、久留米市内でも樹木の幹や石の表面等で見られますが、真菌類(地衣菌)と緑藻や藍藻(共生藻)との複合生物です。過酷な環境に対する耐性を有し、抗菌活性等の生理活性物質を産生します。本講義では、地衣類の基礎と工業的利用法について解説します。	〃
10月26日 (火)	藤田 八暉 (久留米大学 経済学部教授)	地球環境問題と温暖化防止対策	21世紀の最大の課題となっている地球環境問題について、その要点を概説したうえで、特に地球温暖化問題について、温暖化防止のための国際的な取組の経緯とわが国の取組の状況について解説する。	〃
11月9日 (火)	河内 俊英 (久留米大学比較文化研究所特別研究員)	循環社会をめざして廃棄物問題を考える	環境問題を考えるときに廃棄物を無視できませんが、資源化や再利用すると、驚くほど削減できます。方法や理由を一緒に考えましょう。	〃
11月16日 (火)	馬場 光義 (久留米市環境部環境保全室課長補佐)	久留米市の公害行政	これまでの公害行政の歩みや大気汚染、水質汚濁などの環境データについて昨年度の結果や経年変化などについて説明します。	〃

11月19日 (金)	江越 和夫 (久留米信愛女学院短期大学 フードデザイン学科教授)	食の安全	安全な食生活を送るためには、食の安全を脅かすものを知ることが必要です。本講義では、食中毒・ノロウイルス・食品添加物・農薬・プリオン・ダイオキシン・食品不祥事等について概説します。	〃
11月26日 (金)	萩尾 ミドリ (久留米信愛女学院短期大学 幼児教育学科講師)	今、保育所・保育園に 求められているもの	子どもや子育て家庭を取り巻く環境の変化により保育所に対する期待と役割が高まっている保育の現状について解説します。	〃
12月7日 (火)	岡部 千鶴 (久留米信愛女学院短期大学 ビジネスキャリア学科教授)	久留米市の 女性を取り巻く生活環 境	久留米市の男女平等政策は全国でも有数の水準です。 ひとり親家庭やDV被害女性への支援策を例に久留米市の取組みを学び、さらなる男女共同参画社会実現に向けて共に考えましょう。	〃
12月10日 (金)	大町 福美 (聖マリア学院大学 看護学部准教授)	地域社会で考える子育て	子育てに悩む親の増加、幼児虐待などが社会問題として取り上げられる今、様々な子育て支援に対する施策が実施されています。しかし、子育てに関する問題は一向に解決されません。子育て支援の状況を概観し、私たち一人ひとりがどのように子育て支援に関わることができるか一緒に考えましょう。	〃
12月14日 (火)	秦野 環 (聖マリア学院大学 看護学部准教授)	HIVとAIDS、世界の現状 と、いま私たちにできること	現在世界では、約3,300万人の方が既にHIVに感染しており、毎年約300万人の方が新しくHIVに感染し、約200万人の方がエイズで亡くなっています。1980年代初めに発見され、アメリカ合衆国やアフリカのエイズが注目されてきましたが、日本でも現在約16,000人の方が感染されており、「外国の病気」では決してありません。世界の状況を概観し、いま私たちにできることを一緒に考えませんか。	〃
12月17日 (金)	日高 艶子 (聖マリア学院大学 看護学部准教授)	高次脳機能障害者のセ ルフケアの再構築	高次脳機能障害とは、人が社会生活を営むうえで重要な言語、物や空間の認知、目的を持った行為、記憶、注意、遂行機能などの高次脳機能が脳血管障害や頭部外傷などを主たる原因とし障害されることをいう。高次脳機能が障害されると、食事、排泄、行為、整容、入浴などのセルフケアや社会生活が困難な状況となる。本講義では、セルフケアの再構築に向けた高次脳機能障害の介入方法について解説すると共に、高次脳機能障害を持つ人への理解を深めることを目的とする。	〃
講座 開催日	講師	演題	講義内容	会場
12月21日 (火)	河内 俊英 (久留米大学比較文 化研究所特別研究員)	久留米周辺の 河川環境と飲み水	飲み水は、河川水に依存していることから、川の状態が「安全性やおいしさ」に関係します。その実情と将来について紹介します。	くるめりあ六 ツ門

【開催会場】

くるめりあ六ツ門



【開講時間】

19時00分から20時30分

【出願手続】

履修や出願手続等については、所属校の窓口（下記参照）にお問合せください。

【受講定員】

60名（定員になり次第受付を終了します）

～ 問 い 合 わ せ ～

★久留米大学御井学舎事務部教務課 3	TEL : 0942 - 44 - 2071	/	FAX : 0942 - 43 - 441
★久留米工業大学教務課 0	TEL : 0942 - 22 - 2345	/	FAX : 0942 - 21 - 877
★聖マリア学院大学教務課 5	TEL : 0942 - 35 - 7271	/	FAX : 0942 - 34 - 912
★久留米信愛女学院短期大学教務課 1	TEL : 0942 - 43 - 4532	/	FAX : 0942 - 43 - 253
★久留米工業高等専門学校学生課	TEL : 0942 - 35 - 9314	/	FAX : 0942 - 35 - 931